

ホームページへの掲載		
済	2月下旬	掲載予定

岐阜県立各務原西高等学校

学校長 山田 英貴
学校住所 各務原市那加東亜町24-1 電話 058-371-0123

- 1 会議の名称 平成30年度 学校評議員会（第2回） 兼 学校関係者評価委員会
- 2 会議の構成
- | | | |
|-----|-------|-----------------|
| 委員 | 味岡羊二郎 | 十六銀行 各務原支店長 |
| | 鍵山 和昌 | 各務原中央ロータリークラブ会長 |
| | 岩田 孝志 | 地域代表 |
| | 道藤美智代 | 本校元PTA副会長 |
| | 平井 佳美 | 本校第1回卒業生 |
| | 山田 康貴 | 本校PTA会長 |
| 学校側 | 山田 英貴 | 校長 |
| | 堀 修 | 教頭 |
| | 尾関 英明 | 事務長 |
| | 舘 弘士 | 教務主任 |
| | 向井 好美 | 生徒指導主事 |
| | 長谷川 博 | 進路指導主事 |
| | 高谷 日和 | 特別活動部長 |
| | 國居 秀則 | 教務副主任（記録） |
- 3 会議の目的 今年度の学校運営について、住民や保護者に情報を提供すると共に、幅広く意見や要望を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、来年度に向けての提言とする。
- 4 会議の開催 平成31年2月8日（金） 14:30～16:00
各務原西高等学校 校長室
評議員5名、委員1名、学校職員8名出席
- 5 会議の概要
- （1） 学校長挨拶
 - （2） 本日の日程説明
 - （3） 授業参観
 - （4） 学校側説明（教務、生徒指導、進路指導、特別活動について）
 - （5） 評議員、委員からのご提言、ご意見
 - （6） 諸連絡

6 会議内容報告

(1) テーマ 学校側説明（自己評価）

ア 各担当者から

(ア) 教頭から

a 第1回評議員会における学校評議員の意見に対する対応状況について

b 「魅力ある高校づくり推進事業」について

(イ) 教務部から

a 授業改善（新テスト、新学習指導要領への対応）について

- b 総合的な学習のあり方（探求的な学習への取組）について
- c 学校環境整備（生徒問題への対応、職員業務の円滑運営）について
- d 学校評価アンケート集計結果について
- (ウ) 生徒指導部から
 - a 社会の一員としてふさわしい倫理観と規範意識（身だしなみ、挨拶、遅刻）について
 - b 「安全」と「安心」な学校生活（情報モラル、交通安全）について
- (エ) 進路指導部から
 - a キャリア教育の充実について
 - b 進路実現と学習への取組について
- (オ) 特別活動部から
 - a 生徒会活動、ホームルーム活動、学校行事、部活動等の取組（リーダー性・自主性の育成、活動内容の充実と実態のPR）について

(2) テーマ 評議員、委員からの提言、意見、要望等

- ア 遅刻指導が功を奏していることは良い。遅刻をする生徒も含めて学校に行くことについて高校生たちはどう考えているのか。最近の高校生の中には、大学受験のために勉強するだけならば高校に行く必要がないと考える生徒もいるようだ。その結果、退学までするのは残念である。
- イ 授業の中で生徒同士が教え合うことは授業として望ましい姿である。進路指導部の大学見学の見直しについては、個々の志望も考えて自主性に任せたオープンキャンパスへの参加が良い。特別活動部の目安箱の活用は評価できる。
- ウ 授業を参観して、先生方に生徒に対する親近感が見られた。学校評価のCDへの見直しについて、時には項目内容そのものの取組を切り捨てることがあっても良いのではないか。企業でも高校と同様にネットの脅威を感じている。また、学校の不登校問題も同様に仕事に来なくなる者がいる。最近の若者の傾向として、すぐに自分の権利を主張する、組織にコミットしない、親が出てくる。また、金銭感覚（親の収入状況やお金を手に入れることについて）が身についておらず、ライフステージが想像できない（大学進学だけが目的で、先を見通していない。何をすべきか理解していない）などが見られる。
- エ ボランティア活動は学校評価ではマイナス評価が見られるが、過去と比較して参加人数も増加しており、よくやっている。一層のPR努力が必要である。
- オ 学校評価アンケート実施は大事なことだが、数字を読み間違えないようにしてほしい。実質十分な取組があっても、評価者の目に見えていない活動もある。それらを含めて、先生方はよくやっていると感じる。各分掌の自己評価はもっと高くても良いし、先生方は自信を持ってアピールしてほしい。授業ではアクティブラーニングが定着してきている。服装や挨拶の指導も行き届き、生徒も良く応えている。
- カ アクティブラーニング型授業が定着してきている。生徒同士が教え合うことはお互いの理解度が増し、効果がある。ただし、活動的な授業の中で孤立する生徒がいないように十分な配慮をお願いしたい。取り残され、孤立した生徒が不登校や最悪の場合は退学につながることも考えられる。人気がある学校へ入学したのに退学するのは残念だ。退学しなくて済む配慮と指導が必要である。
- キ 服装などの乱れもなく、当たり前のことが当たり前でできる良い学校だ。問題を抱えている生徒には相談したいタイミングがある。そのタイミングを逃さないためにも、常時相談に対応できる状況を作ってほしい。生徒が持つ鞆の荷物の多さを見るとロッカーの容量が小さいと思う。
- ケ 前回資料の大学進学状況について、国公立の合格者数の減少が気になっている。
(進路指導部から状況説明)

7 会議のまとめ

評議員、委員の方には日頃から本校に関心を持っていただき、具体的な質問や意見が多く出された。学校に対する好意的な思いが多く語られ、今までの様々な取組について評価をしていただいた。さらに地元住民や親としての立場から、地域の中での学校の在り方や本校の目指す方向について示唆をいただいた。生徒の姿や学校の取組の評価が校外で高く評価していただけるよう、今回の貴重なご意見を参考に、今後も改善に向けて粘り強く努力し、生徒のために尽力していきたい。